

【YAWATA 150】

－ふるさとは八幡小学校です－

令和4年12月19日（月）

今年度、八幡小は150周年を迎えます。そこで、150周年にちなむお話を、八幡学区の歴史につながるお話をいろいろとしています。

今回は、「八幡村」に関するお話を……。

歴史が短かった「八幡村」

以前のお話で、八幡小学校がある場所には、かつて「八幡村」という村があり、それが八幡小学校の名前の由来ですよ……という話をしましたね。

八幡小の名前のもととなった「八幡村」は、明治22年（1889年）に、いくつかの村が合併してできた、新しい村でした。

そして、その当時、八幡村は名古屋市ではありませんでした。当時は、「愛知郡八幡村」という地名だったので。

その後、大正10年（1921年）に名古屋市に編入されたときに、「八幡村」という地名はなくなってしまいました。

みなさん、上の説明の（〇〇〇〇年）の中の数字に注目してください。

「八幡村」という名の村が、1889年から1921年までの、30年ちょっとの歴史しかなかったことがわかるでしょうか？「やわたむら」という地名は、たった30年くらいしか存在していなかったのです。そのたった30年の歴史しかない「やわた」の名を小学校と中学校が引き継いでいます。

ちなみに……

- ① 現在、学区周辺の町名・地名などで「八幡」の名が残っているのは、「八幡本通」だけかな。ほかにもあったら教えてください。
- ② 八幡村が、名古屋市になったとき、このあたりは「名古屋南区」の一部だったそうです。（当時、名古屋市には、「中区」「東区」「西区」「南区」の4つの区しかなかったのだそうです。
- ③ その後、昭和12年（1937年）に、名古屋市が周辺の町や村を編入し大きくなったときに、これまでの4区制から10区制になりました。このあたりは、「南区」から「中川区」へと区名が変わり、そのうちの一部（現在は、野立小の学区・大宝小の学区のあたり）は、後に、熱田区に編入されました。ちなみに、なぜ「中川区」という名前になったのかというと……これはまた、この先のお話で
- ④ 中川区は、最初、庄内川より東の部分だけでした。昭和30年（1955年）に、庄内川より西の富田地区が名古屋市と合併し、中川区となり、中川区はとても面積の広い「区」となりました。

